

## 活動報告

# 豊岡市立八代小学校での半年間の演劇ワークショップの試み —小規模特認校と芸術文化観光専門職大学の連携について—

小島寛大 田上豊

## Six Months Theater Workshop at Yashiro Elementary School in Toyooka City:

Collaborative Project Between a Small Chartered School and Professional College of Arts and Tourism

KOJIMA Hiroto TANOUE Yutaka

(2024年3月7日受付, 2024年9月30日発行)

### 1. はじめに

本稿は、本学の地域リサーチ&イノベーションセンター（以下 RIC）が令和5年度に受託した「八代小学校活性化事業」の活動報告である。約半年間に渡って全10回行った豊岡市立八代小学校での取り組みについて演劇ワークショップ（担当：田上豊）の内容とプログラム評価（担当：小島寛大）の観点からそれぞれに振り返る。

### 2. 八代小学校（豊岡市初の小規模特認校）

八代小学校は、日高町八代地区の山間にある豊かな自然に囲まれた学校である。2023（令和5）年度の児童数は22名。少人数ながら、全校児童で行う和太鼓や一輪車など特色のある活動が授業で行われ、学年を超えたつながりが強く、子どもたちの元気と暖かさを感じる学校である。同校には、2024（令和6）年度から小規模特認校<sup>1)</sup>の制度が導入されることが決定している。但馬地域の小規模特認校は平成30年度に始まった養父市の建屋小学校に続き2校目<sup>2)</sup>で、豊岡市では初めてとなる。

八代小学校は、令和3年に豊岡市教育委員会で策定された豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画にて、八代小学校を含む3つの小学校での再編が望ましいとされていた。しかし、八代地区のPTAや

地元住民から小学校存続への強い要望があり、その後、市と住民との複数回の意見交換会を経て、2024（令和6）年度から小規模特認校となることが決まった。

また、小規模特任校認定に向けて地域自らが計画した「特色のあるカリキュラムや地区の取り組み」で発案された中に、「芸術文化観光専門職大学との連携」があり、本学の趣旨とも合致することからこの共同プロジェクトがスタートすることになった。

### 3. 八代小学校での演劇ワークショップ

#### 3.1. 実施プログラム

プロジェクトの実施にあたり、八代小学校からは「和太鼓や一輪車など総合的な学習の中で全校で普段から取り組んでいる活動を取り入れた地元を題材とした演劇作品の発表」が提案されたが、スケジュール等の諸条件から、大規模な創作ではなく、演劇を活用したコミュニケーション教育を主としたプログラムを行うこととなった。ただし、可能な範囲で創作体験の要素は残し、八代小学校オリジナルの簡単な朗読劇を作って、恒例の学校行事として2024年2月に予定されていた、地域の方や保護者の方に向けた「感謝する会」で披露することが決定した。

本プロジェクトは、まず最初に参画者（講師、アシスタント、児童、教員）同士の信頼関係の構築が

表1 演劇ワークショップの実施内容

期間: 2023年10月13日～2024年2月17日〈全10回〉1回＝45分 会場: 豊岡市立八代小学校 体育館、学習室		
前半: コミュニケーションWSと朗読劇へのリサーチ	① 10月13日(金)	コミュニケーションWS①
	② 10月20日(金)	コミュニケーションWS②
	③ 11月17日(金)	セリフ作りを楽しもうWS
	④ 12月1日(金)	「八代小学校のいいところ教えて」WS①
	⑤ 12月8日(金)	「八代小学校のいいところ教えて」WS②
後半: 朗読劇の創作プログラム	⑥ 1月19日(金)	朗読劇・創作① 読み合わせ
	⑦ 2月2日(金)	朗読劇・創作② 演出を受けてみる
	⑧ 2月9日(金)	朗読劇・創作③ みんなで工夫してみる
	⑨ 2月16日(金)	最終リハーサル
	⑩ 2月17日(土)	発表(八代小学校「感謝する会」にて)



写真1 最終リハーサルの様子 (2月16日)

写真2 「感謝する会」の様子。  
2Fからも多くの保護者が見守った。

重要だと考えた。そのため前半では交流性の強いシアターゲームを軸に演劇ワークショップ(以下WS)を展開した。その土台の上で、プログラム後半には、八代小学校としても初の試みである全校児童による演劇創作を配置。児童たちのアイデアを盛り込んだ台本を執筆し、演出も行った。期間の前半と後半で性格の異なる要素があるが、全ての過程で「演劇遊びの延長」の体を取り、この遊戯性が児童たちにとって遊びながら学べる仕掛けとなるよう慎重にデザインを施した。

### 3.2. SA(スチューデント・アシスタント)について

本事業では、SA制度<sup>3)</sup>を活用し、演劇WSとプログラム評価の2つのセクションでアシスタントを募集し、8名の学生が業務に従事することとなった。

本学の学生は、コミュニケーション教育を受けていることもあり、適応能力が高い。だからこそ迫り着けた小学生との濃密な交流が八代小学校には存在していた。この交流は、まさしくRICの目指す地域連携のポリシーに相当するものであり、但馬地域に大学があることで可能な「人材を介した地域還元」の良き先行事例になったと感じている。

演劇WSアシスタントとして最も多く参加したSAの1人は、次のようにコメントしている。

プロジェクトに参加し、児童の成長を一番近くで見届けられた。プロジェクトに関わる全員が挑戦し成長できる点が、他にはない大きな特徴だと思われる。「何をしても正解」というお芝居の利点が教室にも広がり、児童らが何事

にも挑戦する様子が見られ、次回があることで、大学生にも反省を活かす機会が与えられた。創作を通じて共にしてゆく、とにかく楽しくて夢中になれる事業だった。

3.3. 八代小学校の教員との連携

10回の演劇WSでは、八代小学校の教員との連携が重要だった。特にWS後半（創作期間）に各学年の担任教員と授業後の振り返りを行ったことで、その都度、円滑な創作が可能となった。例えば、朗読劇（宮沢賢治の「雨ニモマケズ」が登場する内容）のテキストを初めて読み合わせた際、毎回楽しそうに参加していたある低学年の児童が急に強い抵抗感を示したことがあった。この回の授業後、低学年の担任教員から「体育館で体を動かす内容から教室での実施に変わり、「普段の勉強」のような印象を受けたのではないか」との指摘を受けた。こういったことの積み重ねは、同校での創作の配慮点を見つめ直すきっかけとなった。

期間的には長期ながら、一回45分という授業時間の短さと不定期での開催は、演劇WSとしては難しい条件であった。さらに本プログラムのように相手方の教員と意見交換を必要とする創作WSの場合、教員同士がどのようにして良好な関係性を構築するのか、といった視点でも取り組む必要がある。

4. プログラム評価と調査

4.1. 評価における観点と問い

本プロジェクトでは、演劇WSがもたらす様々な変化を関係者とともに検証し、事業の改善につなげることを目的としてプログラム評価に取り組んでいる。事業の初年度にあたる今年度は、「関係者のニーズに関する基本的な状況（ニーズ）」、「演劇WSは八代小学校の特色ある教育づくりにいかに貢献するのか（セオリー）」、「計画と比較して実際の内容（プロセス）」という3つの評価の観点を設定し、観点ごとに3つ（計9つ）の問いを設けた。

その中でも特に重要な問いは「演劇WSが八代小学校の既存の活動とは異なる価値を持つ時間となるのか」というものである。一輪車や和太鼓の活動で普段から学年を超えて密なコミュニケーションをとっている子どもたちにとって、演劇WSが既存の活動とは異なる時間をもたらすのか。また、その影響を関係者がどのように捉えたかという点が今年度の評価の重要なポイントになる。

4.2. 調査内容

今年度は、表2に示す通り、アンケート（対象：全校児童、全家庭）とグループインタビュー（対象：児童代表、保護者代表、教員）による調査を行った。毎回のWS後に児童を対象に行ったアンケー

表2 2023年度の調査内容

調査方法	対象	実施日
①授業後アンケート	全校児童（1～6年生、22名）	各回WS終了後（9回）
②授業後のふりかえり	教職員（参加者は回により異なる）	10月13日、11月17日、12月8日、1月19日、2月9日（全5回）
③発表後アンケート1	全校児童	発表終了後当日（2月17日）
④発表後アンケート2	全家庭	感謝する会（2月17日）終了後に配布し、後日回収。
⑤グループインタビュー1	保護者代表（1グループ） PTA役員7名	感謝する会終了後 2月17日15:00（30分）
⑥グループインタビュー2	教職員（2グループ） Aグループ（管理職4名） Bグループ（担任4名）	Aグループ：2月28日14:50（30分） Bグループ：2月28日15:20（30分）
⑦グループインタビュー3	児童代表（2グループ） Aグループ（5年生4名） Bグループ（6年生2名）	Aグループ：2月28日13:15（30分） Bグループ：2月29日13:15（30分）

トでは、児童が感じる緊張や難易度、楽しさなどの変化を捉えるため、楽しく感覚的に短時間で回答できる気持ち温度計の調査紙を用いた。

また、調査の一環として2回に1回の頻度で、SAも交えて放課後にふりかえりの時間を持った。WSの流れに沿って印象的な出来事を全員で付箋に書き出し、グループディスカッションを行った。限られた時間であったが、対等な立場で活発に意見を交換し、互いに気づきを得る重要な時間となった。

#### 4.3. 今年度の調査結果

全10回の児童の気持ち温度計の変化を見ると、全体を通して緊張は低く抑えられながら、「楽しい」、「もっとやりたい」という気持ちを持ちながら取り組んでいたことが分かった。発表会直後のアンケートでは、「この半年間とても楽しかった」など充実感や達成感を表現するコメントが多く見られた。また、大学生と交流できたことの楽しさや感謝を表すコメントも多く、毎回交代で参加した大学生たちの存在が本事業にとってもポジティブな影響をもたらしていたことが明らかになった<sup>4)</sup>。

保護者へのアンケートでは、演劇ワークショップを継続してほしいという肯定的な回答がほとんどを占め、その理由として「子どもの表現力が伸びる」、「自信につながる」といった内容が見られた。また、多くの児童が演劇WSでの出来事や発表について保護者と話をしており、家庭内でのコミュニケーションのきっかけにもなっていることが分かった。

小学校教員へのグループインタビューにおいて、「教員にとっても学ぶことが大きい」、「子どもたちとの接し方を見直そうと思った」といったコメントが多く見られただけでなく、数人の教員から一輪車や和太鼓と演劇WSは「大きく方向性が異なる時間」であったという指摘が数人の教員からあった。

小学校教員たちが語った違いとは、次のようなものである。一輪車や和太鼓では、目指すべき完成形や習得を要する技術が明確であり、正解と目標が教員の側にあり、児童たちはできる人ができない人に教えるという関わりを持つ。そして、児童も教員も1人の失敗が全体の失敗に繋がる強い緊張と重

圧を感じながら取り組み、その中で成長していく活動である。それに対して、今回の演劇WSは、児童の自由な表現や自然体の姿を認め、それを取り入れながらオリジナルの朗読劇がだんだんとできあがり、誰にとっても正解はなく初めての経験である。また、台本を手にして演じる朗読劇は暗記の必要がないため緊張が抑えられ、児童は授業でも成果発表でものびのびとした姿を見せていた。

ある教員は異なる方向性の活動が「両方あることが良い」と述べた。学校の授業の中で、子どもたちにとっても教員にとっても、正解のないものを共に創り出し、その過程を楽しむ時間があることが学びやコミュニケーションをより豊かにするという実感のこもった指摘ではないだろうか。

このように、今回の演劇WSは既存の全校活動とは異なる方向性を持つ豊かな時間を八代小学校に生み出し、その影響が児童だけでなく、教職員や児童の家庭にも広がりを持っていたことが明らかになった。調査結果の詳細については、別途作成する報告書をご覧いただきたい。

この初年度の半年間は、「演劇の授業」と八代小学校というコミュニティとの良い出会いになったと言えるだろう。田上氏による「全てが演劇遊びの延長」というプログラムの根底には、さまざまな個性を持つ子どもたちの自然体の姿を受け止める姿勢があった。その寛容性の高さが、良い出会いの鍵の一つとなっていたように思う。

#### 5. 事業継続のための課題と展望

本稿の最後に今後の課題と展望を3点挙げておきたい。

1点目は、演劇WSの目的と授業時間のバランスである。現実的には小学校側の事情など様々な制約が存在する中で、関係者で事業の目指す方向を事前に協議し共有することが重要だろう。本事業の成果を検証するには、次年度以降の展開や本事業の経緯や制約を踏まえた慎重な議論が必要となる。次年度のプログラム評価では、関係者がより対話を重ね共に事業の成果や価値を検証する参加型



評価にできるかぎり取り組んでいきたい。

2点目は、学生の参加を後押しする制度の検討である。今年度の調査から大学生の存在が重要な役割を果たしたことが明らかになった。しかし、SAに応募しても授業と重複し参加回数が限られたり、参加を断念したりした学生もいたことも記しておきたい<sup>5)</sup>。本事業のような機会は学生にとっても大きな学びの場となる。何か制度を検討できないだろうか。

3点目は、双方の教員の負担への配慮である。連携事業は授業時間以外にも打ち合わせやふりかえり等にも多くの時間と労力を要する。解決策の一つとして、WSに伴走支援するコーディネーター的な専門人材を配置することが考えられる。今後、本学の卒業生がそういった役割を担い活躍することを期待したい。

#### 謝辞

全10回のWSを無事に終え、22人の子どもたちに演劇の楽しさを味わう時間を届けることができたことは、八代小学校の教職員の皆様のご理解とご協力があったことである。この場をお借りして改めてお礼を申し上げたい。

#### 注

- 1) 小規模特認校制度は、「学校選択制」の一形態である「特認校制」のうち、「小規模」において取り入れられている制度で、従来の通学区域を残したままで、特定の学校について、通学区域と関係なく、当該市町内のどこからでも通学を認めるものである。小規模特認校では、特色のある教育を推進し、区域外の児童生徒を呼び込むことにより、子どもたちの活動を充実させることや、複式学級の解消など学校の活性化を図ることをねらいとしている。
- 2) 兵庫県教育委員会(2021)「少子化に対応した教育の充実に向けて～公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討にあたって～」によると、令和3年時点では、兵庫県内に9校(神戸市2校、三田市1校、猪名川町2校、西脇市1校、養父市1校、南あわじ市2校)に導入されていた。
- 3) 本学の行事や受託した事業で主に教員の補佐を行う学生を有償で募集する制度。
- 4) 小学校の教員からも、大学生たちの児童との親しさと適度な距離感をあわせ持った接し方や言葉のかけ方を高く評価し、大学生がいたことで授業が活性化したという指摘が多くあった。
- 5) 13名の応募があったが、実際に勤務できたのは8名であった。

#### 付記

本事業における上演台本およびアンケートについては、データでJ-STAGEおよび本学リポジトリに掲載する。

八代小学校 感謝する会 ろうどくげき 朗読劇シナリオ

げんさく みやざわけんじ  
原作：宮沢賢治

きやくしよく たのうえゆたか げいじゅつぶんかかんこうせんもんしよくだいがく やしろしょうがっこうせいといちどう  
脚 色：田上 豊（芸術文化観光専門職大学）＋八代小学校生徒一同

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫な体をもち  
欲は無く 決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを自分を勘定に入れずに  
よく見聞きしわかり そして忘れず  
野原の松の林の陰の 小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行って怖がらなくてもいいと言い  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろと言い  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず 苦にもされず  
そういうものに わたしは なりたい

## ★ひらがなバージョン

あめにもまけず  
かぜにもまけず  
ゆきにもなつのあつさにもまけぬ  
じょうぶなからだをもち  
よくはなく けっしていからず  
いつもしずかにわらっている  
いちにちにげんまいよんごうとみそとすこしのやさいをたべ  
あらゆることをじぶんをかんじょうにいれずに  
よくみききしわかり そしてわすれず  
のはらのまつのはやしのかげの ちいさなかやぶきのこやにいて  
ひがしにびょうきのこどもあれば  
いってかんびょうしてやり  
にしにつかれたははあれば  
いってそのいねのたばをおい  
みなみにしにそうなひとあれば  
いってこわがらなくてもいいといい  
きたにけんかやそしょうがあれば  
つまらないからやめろといい  
ひでりのときはなみだをながし  
さむさのなつはおろおろあるき  
みんなにでくのぼーとよばれ  
ほめられもせず くにもされず  
そういうものにわたしはなりたい



## はいやく 〈配役〉

\*これは、セリフをいう人のばんごうです。  
ばんごうのよこに自分や人の名前を書きます。

(かきかたの例：0は、たのうえゆたか)

1は、	2は、
3は、	4は、
5は、	6は、
7は、	8は、
9は、	10は、
11は、	12は、
13は、	14は、
15は、	16は、
17は、	18は、
19は、	20は、
21は、	22は、

みんな とかいてあるところは、みんなというセリフです。

●の部分は、ト書きといって、セリフではなく、うごきなどの指示です。

●朗読劇ろうどくげきのシナリオ

1        せーの

みんな    こんにちは！（かんきやくに向かって）

1        これから、八代小のみんなでかんがえた

みんな    あめにもまけず！

1        をやります。

2        あめにもまけずっていうのは、ゆうめいな詩人（しじん）の、せーの、

みんな    みやざわけんじ！

2        みやざわけんじさんのさくひんです。

みんな    おお～

3        ねえ、この詩（し）をよんでみて、どうだった？○○さん。

●3の人は何人かにきく、きかれた人はそれぞれかんそうをいう。

3        じゃあ、みんなは？

●みんなすきにいっせいにかんそうをいう。

3        はいはい！（みんなをしずかにさせた後に）こんなかんじで、あめにもまけずをよんだかんそうは、ひとそれぞれです。なので、これから、みんながかんじたものをもりこんだ、八代小学校オリジナルの「あめにもまけず」をおおくりします。せーの、

みんな    よろしくお願いします！

●みんな、おきやくさんにむかって、おじぎをする。

4        じゃあ、まずはシンプルにみんなでよんでみよう。

●みんな、よむ準備じゅんびをして、深呼吸しんこきゅうをして、

1        あめにもまけず

2        かぜにもまけず

3        ゆきにもなつのあつさにもまけぬ

4        じょうぶなからだをもち  
5        よくはなく    けっしていからず  
6        いつもしずかにわらっている  
7        いちにちにげんまいよんごうとみそとすこしのやさいをたべ  
8        あらゆることをじぶんをかんじょうにいれずに  
9        よくみききしわかり    そしてわすれず  
10       のはらのまつのはやしのかげの    ちいさなかやぶきのこやにいて  
11       ひがしにびょうきのこどもあれば  
12       いってかんびょうしてやり  
13       にしにつかれたははあれば  
14       いってそのいねのたばをおい  
15       みなみにしにそうなひとあれば  
16       いってこわがらなくてもいいといい  
17       きたにけんかやそしょうがあれば  
18       つまらないからやめろといい  
19       ひでりのときは    なみだをながし  
20       さむさのなつは    おろおろあるき  
21       みんなにでくのぼーとよばれ  
22       ほめられもせず    くにもされず  
みんな    そういうものにわたしはなりたい

●5秒ほど、シーンとする。

1        ほんとうに？  
みんな    え？  
1        になりたい？そういうものに、ほんとに。  
みんな    …（だまってしまう）  
1        ほんとになりたい？  
みんな    うーん。  
2        おっけい、じゃあ、やっぱり一回かんがえよう。  
4        いいね。そうしょそうしょ！  
2        （かんきゃくに向かって）なんか「そういうもの」が、ちょっとちがう  
          みたいなんで、少々お時間いただきまして、「わたしたちのまめにもま  
          けず」にかえるための、さくせんかいぎをやらせてください。  
みんな    しょうしょうおまちください！

●みんなで、はなしあいをはじめる。

●そして、15秒ほど、はなしあったのちに、

- 4        せーの、  
3        お待たせしました！  
5        ととのいました！  
みんな   はい！  
5        あめにもまけず、とかけて、八代小学校とときます。  
みんな   そのころは！

●みんなで<sup>あめ</sup>雨のおとをこえてひょうげんする。

- 6        あめにもまけず、かぜにもまけず、ぼく（わたし）は、おどりがすき。  
7        ぼく（わたし）は、あめにぬれて、かぜを引いて、ときどき学校をやす  
          んじゃう。じょうぶな体ってむずかしい。  
8        えっとね、たいこもいちりんしゃもできるし、この学校はさいこう！  
9        ぼく（わたし）には欲がない。いやウソついた。本当はほしいものがい  
          っぱいある。あと、けっしていからず？そんなのはまだまだむりむり。  
          だって、まだ小○だも〜ん。  
10       おひるに、えっと今日は（給食のメニュー表を広げる）ごはんときゅう  
          にゅうと○○○（おかずの名前）と。すこしの○○（デザートの名前）  
          をたべるよてい。やばい、おなかへってきた。  
11       あらゆることをじぶんをかんじょうにいれないって、どういうこと？  
          じぶんのことをだいじにしなさいって、いつつも言われてるけど、じぶ  
          んをかんじょうに入れちゃダメなの？どうなの、宮沢賢治さん？  
12       その点、ぼく（わたし）はだいじょうぶ。だって、ぼく（わたし）は、  
          いろんなことをよく見れるし、よく聞けるし、よくわかる。ただ、その  
          かわり、よくいろいろ忘れちゃう。だから、やっぱりぜんぶはむりだね、  
          けんじさん。  
13       ぼく（わたし）たちは、大きな日高の、たくさんの田んぼのそばの小さ  
          な小さな、でもとってもだいすきな小学校の中にいて、  
14       ひがしにびょうきのこどもあれば、「だいじょうぶ？どこかいたいの？  
          きぶんがわるいの？トイレいく？ほけんしつにいく？先生よぶ？のど  
          あめあげよっか？あ、あめを学校にもってきてるのは、ないしょね」と  
          言って、かんびょうしてやり、

- 1 5 にしにつかれた母あれば、とくにぼく（わたし）のおかあさんは、あさからゆうがたまではたらいて、かえってきてからもごはんつくってくれて、そのあともたくさんお話しとかしてくれて、いつもありがとう！いつか、いねのたばをプレゼントするね！
- 1 6 みなみにころろがしにそんな人があれば、いって…でもそういう時ってなんて伝えればいいのか、先生。でも先生は答えてくれない、とっても大切なことはじぶんでかんがえてみるのがだいじなんだって、先生は教えてくれた。だから、かんがえてみる。ころろがくるしいひとにとって本当のさいわいってなんだろう。
- 1 7 きたにけんかやそしょうがあれば…そしょうってなに？おとなの人たちは、はなしあってもかいけつできない時は、そしょうすることがあるらしい。骨粗しょう症（こつそしょうしょう）のそしょう？カルシウムたりないとイライラするんでしょ。だから、まいにちぎゅうにゅう飲むんだな、ぼく（わたし）たちは。
- 1 8 ひでりになったり、あめがふったり、ゆきがふったり、かぜがふいたり、シカが出たり、クマが出たり、おおゆけいほうにだまされたり、
- 1 9 修学旅行いったり、自然学校いったり、えんそくに行ったり、マラソンしたり、絵をかいたり、べんきょうしたり、しなかったり、
- 2 0 うれないチェケラごっこしたり、ゴロゴロしながらねころんで、三人でなぞにかさなってみたり、先生のにがおえをかいてみたりする。
- 2 1 あさ、がっこうにいくと、いつもみんながいて、おはようってことばをあたりまえにいいあえることのよろこび。
- 2 2 近所のおじさんもおばさんもおじいさんもおばあさんもおにいさんもおねえさんもちいさい子も赤ちゃんもみーんな、このまちもこの学校のことも大好きで、
- 1 わたしたちは、いろんな人に、ほめられることもあるし、いろんな人に気にしてもらえるし、
- 2 でも、宮沢賢治は、「ほめられもせず、苦（く）にもされず」だって。そういうものになりたいんだって。みんな、どう？

●みんな、すこし、だまってしまう。

●3の人が手をあげる。みんな3のひとをみる。

- 3 クラムボンはわらったよ、クラムボンのカプカプわらったよ。

●みんなで「カプカプカプカプ」とわらいながらたくさんいう。

4 ほめられもせず、くにもされず…

例文) まいにち練習して一輪車が上手でかっこいい      そういうものに、  
 例文) じぶんのすきなものをとってもだいじにできる      そういうものに、

一年生	_____	そういうものに、
一年生	_____	そういうものに、
一年生	_____	そういうものに、
二年生	_____	そういうものに、
三年生	_____	そういうものに、
三年生	_____	そういうものに、
四年生	_____	そういうものに、
四年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
五年生	_____	そういうものに、
六年生	_____	そういうものに、
六年生	_____	そういうものに、
六年生	_____	そういうものに、

●みんなでかおをみあわせる。

みんな      そういうものに、わたしたちはなりたい。

●みんなでおじぎをして、おわり。

# えんげきの発表おつかれさまでした！！

## アンケートにご協力ください



がくねん

① 学年 ・1年 ・2年 ・3年 ・4年 ・5年 ・6年

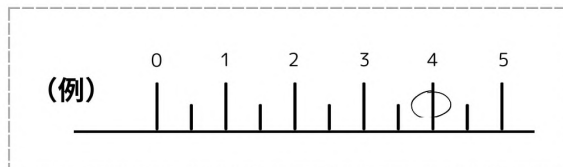
かんしゃ

かい

はっぴょう

② 感謝する会のえんげきの発表は、  
どうでしたか？

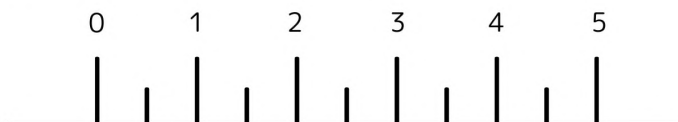
きもちに あてはまるばしよに ○をかいてね。



← あまり

→ すごく

・ たのしかった？



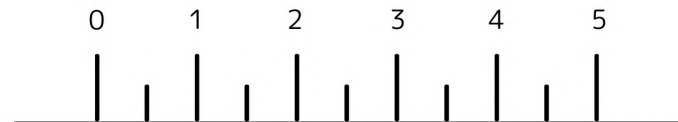
・ きんちょうした？



・ うまくできた？



・ またやりたい？



はっぴょう

かんそう

③ えんげきを發表した感想をおしえてください



---

---

---

---



④ おうちにかえってから、おうちのひと

えんげきの<sup>はっぴょう</sup>発表の<sup>なに</sup>ことを<sup>はな</sup>何か話しましたか？

1. はい

2. いいえ

3. わからない



「はい」の人は、どんな<sup>はなし</sup>話をしましたか？



⑤ えんげきの発表のために、おうちで<sup>なに</sup>何か<sup>れんしゅう</sup>練習しましたか？

1. はい

2. いいえ

3. わからない



「はい」の人は、どんな<sup>れんしゅう</sup>練習をどれくらいしましたか？  
(例：じぶんのセリフを毎日いった)



⑥ <sup>たのうえ</sup>田上さんや、<sup>だいがくせい</sup>大学生たちにメッセージをどうぞ！



ありがとうございました！